

研究課題名	超音波内視鏡下肝胃瘻孔形成術におけるプラスチックステントの治療成績の検討
研究の意義・目的	胃十二指腸狭窄を来している方や胃の手術を受けたことのある方で、閉塞性黄疸を来した場合は超音波内視鏡下肝胃瘻孔形成術を行って胆道ステントを留置することがあります。ステントの種類にはプラスチック製と金属製がありますが、当院では初回にこの処置を行う際はプラスチックステントを使用しています。しかし、使用するステントの選択には決まった基準はありません。当院での治療成績を検討することで、今後の診療の発展に貢献できるものと考えます。
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日～2027年12月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2019年9月～2022年2月に大阪公立大学医学部附属病院の消化器内科で閉塞性黄疸に対して超音波内視鏡下肝胃瘻孔形成術でプラスチックステントが留置された方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報等：病歴、診断名、年齢、性別、入院日数、既往歴、内服薬、血液検査データ、内視鏡画像、CT画像、MRI画像、病理組織検査、術式など
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪公立大学医学部附属病院消化器内科のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪公立大学医学部附属病院消化器内科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪公立大学大学院医学研究科 消化器内科学 研究責任者 丸山 紘嗣
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪公立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 消化器内科学 研究分担者 山村 匡史 住所 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町 1-4-3 電話 06-6645-2316 E-mail masayama@omu.ac.jp